

校長室だより(No.45)

令和4年3月21日
丹波市立黒井小学校長
谷口 千尋

学校評価

令和3年度の学校評価(パワーアッププラン)について学校評価委員会(外部有識者)に行っていましたので、ここに概要をお知らせいたします。詳細につきましては、ホームページに公開していますのでご覧いただければ幸いです。

「地域に誇りを持ち 未来を切り拓く 黒井っ子の育成」学校教育目標に、[自立] なにごととも自分で考えて、行動のできる子 [協働] 人のためになることを、すすんでできる子 [創造] 大きな夢を持ち、粘り強くがんばる子の大きく3点を目指しました。

そのために重点的に取り組んだことが、①言語活用能力向上のための授業改善と学習の個別最適化、さらに家庭学習との接続。②不登校や問題行動等の未然防止に向けた情報共有と事案に対する早期発見、早期対応。③健やかな体と体力の向上と防災・安全教育、感染症対策の徹底による安全な学校④CSの推進による協働活動の充実と地域の教育資源の活用をすすめることで家庭・学校・地域が一体となり子どもたちの学力向上を目指す。の4点です。

評価では、学校運営、教育課程、課題教育の3方向から6つの観点で各委員様に評価いただきました。

「開かれた 学校づくり」「学習指導の充実」について紹介いたします。

「開かれた 学校づくり」

学校の取組としては、地域の持つ教育資源を学校運営協議会との協働により発掘・活用することや学校運営協議会(コミュニティ・スクール)を推進し、学校・地域・家庭の「子どもたちの学びの充実」にむけた協働活動を充実させること。学校のもつ情報を積極的に発信することなどに取り組みました。

評価しては、情報公開についてホームページの閲覧回数が37,189回、更新回数が144回と活用ができていると考える。内容も学校だよりを中心に子どもたちや学校の様子がよく分かるものとなっている。学校運営協議会等についてもその取組をホームページに掲載されたい。

「学習指導の充実」

相手の考えを聞き、自分の考えを深める国語科の授業研究の実施により、「主体的・対話的・深い学び」を目指す取組をすすめました。個別の学習課題を明確化することにより、家庭学習や朝のスキルタイムを中心に基礎的・基本的な内容を繰り返し学習させました。児童の情報活用能力の育成に向けて、タブレットPCを活用し、自ら課題を持ち、調べて、まとめて発表するなどの力を育成しました。児童の良い取組や課題解決に向けた経過を認め自己肯定感を育み、学び続ける意欲を育てることを意識しました。「家庭学習の手引き」や「週末プリント」を活用して家庭学習との接続を図り、学習課題に正対し、自ら進んで学び続ける子を目指しました。デジタル教科書を活用し、外国語指導助手とも連携し、外国語および外国語活動の充実を図りました。(市のすすめるインターネットを使った外国との交流にも3・4年生を中心に取り組みました。)

評価として、対話的な学びを大切にされた取組を実施されている点を年度当初に説明された。発達段階に応じて取り組まれてきたことがよく分かった。個別の学習課題を大切にしながらそれと向き合わせることで主体性を身につけさせようとしていることが理解出来た。ICTの活用については、職員研修を中心に、これからの子どもたちに必要な力を身につけさせようとしている点が評価できる。

この評価を学校の教育反省とともに、来年度の教育計画に活かしていきたいと考えています。